

原発問題を考えよう！

原子力安全規則転換方針！ 原発の寿命は40年！？

1月6日、政府（細野原発担当相）は、原子力安全規則の転換方針に原発の40年寿命の導入を盛り込むことを発表しました。

これまで、日本の原発には寿命というものはありません。原子力安全・保安院などは「原発の機器は、十分余裕を持った性能を設計しており、技術上の寿命は60年以上」としてきました。実際には、運転開始から30年経たない原発は老朽化の状態を評価し、それを反映させた保全計画を立てることで運転延長を10年ごとに許可してきたのが現行の制度です。そのため電力会社や原子力保安院などは「保全によって限りなく寿命を延ばせる」とまで言ってきました。

寿命40年だが、運転延長可能！？早くも抜け道が！？

昨年、私たちはPointで原発の老朽化問題を取り上げ、老朽化した原発の危険性を明らかにして「老朽化した原発は直ちに停止せよ！」と訴えてきました。

今回、政府が原子力安全規則を変え、原発の寿命40年が導入されようとしていることは老朽化問題が良い方向に向かい、少しは前進したと言えそうです。

しかし、寿命40年を導入としながらも「運転制限には、老朽化を評価して問題がなければ運転を延長できる」という例外規定も設けられるようです。

そのため電気事業連合会は、原発40年寿命方針に対して「40年で運転制限する根拠、40年を越える運転を承認する際の条件」を明確にするや運転延長の承認までに必要な期間を考慮し、移行期間を求める意見書を出しています。

従って、事実上運転開始から30年後に適切な保全を行う条件で運転延長を10年ごとに許可する現行制度と何ら変わらないことになりかねません。

原発寿命40年の背景に原発の早期再稼働の狙いが！？

また、原発の寿命40年が導入されたとしても安心できるものでもありません。

2004年、美浜原発3号機（1976年運転開始）で発生した配管破断事故（通常運転中の3号機二次冷却系の復水系配管が破裂した事故、死亡5名・重軽傷6名）では、運転開始40年どころか30年にも満たない原発でも老朽化による金属疲労や腐食等の劣化によって人命を失う重大な事故を発生させました。従って、原発寿命40年が導入されても原発の安全性が高まるわけではありません。

政府が原発の寿命40年の導入を言い出した背景には、福島第一原発事故以降、広がり続けている脱原発・反原発の世論を和らげて原発再稼働の道筋を作る狙いがあることが考えられ、また国民をごまかそうとしているのかもしれない。

福島第一原発事故の悲劇を二度と繰り返さないためには、原発の寿命導入ではなく、原発の停止、廃止を求めていかなければなりません。

明日の日本のためにも原発問題を考え、行動しましょう！